

いただきました！大金星！

去る8月18日、「ハロー用賀」において、用賀商店街振興組合が東日本大震災における被災地の復旧・復興に対する貢献ということで経済産業省から表彰されました。これは震災翌日より開始した義援金の募金活動を始め、チャリティーイベントや、まちなか観光物産館「田舎のごっつお」での復興支援フェアなど、用賀商店街と関係の深い陸前高田市を中心とした被災地への支援活動が評価されたことによるものです。4月号でご紹介したとおり、用賀商店街は陸前高田市に商店街役員を中心として8名で現地へ物資を運び、皆様から寄せられた義援金を直接、戸羽市長に渡しました。用賀商店街理事長の小林さんは「用賀商店街が震災直後から行っている復興支援活動は、地域のみなさまのご協力があるからこそのものであります。今回、このような形で用賀商店街へ賞状を頂きましたが、これは用賀をご利用いただいている方全体で頂いたものだと思います。用賀商店街では、これからも復興支援活動を続けていく所存です。」とおっしゃいます。もちろんASA用賀・二子玉川も全力で応援していきます。



4月13日、戸羽陸前高田市長に義援金を直接手渡す小林理事長



8月18日、ハロー用賀にて表彰状を受け取る小林理事長



表彰状を手に経済産業省の担当者と商店街役員を交えての記念撮影

総額 5,041,774 円 5月6日(金)までに用賀商店街に集まった額

用賀商店街振興組合のホームページに、5月6日までに用賀商店街に集まった義援金の収支報告が掲載されていました。

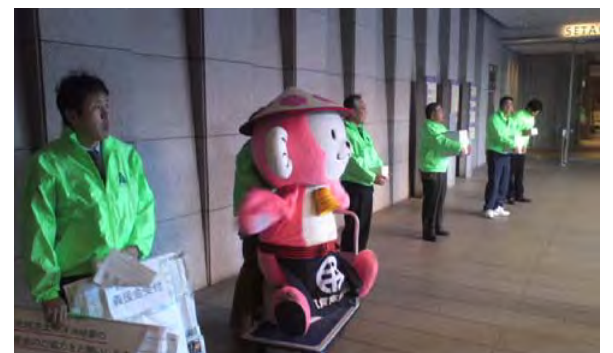
＜義援金総額＞	5,041,774 円
＜支 出＞	
陸前高田市義援金	3,230,000 円
日本赤十字義援金振込	1,531,659 円
陸前高田市支援物資(米・飲料水・お菓子)	280,115 円
総額	5,041,774 円

私も少なくして申し訳なかったのですが、2日間用賀駅周辺で募金活動に参加させていただきました。募金活動をさせていただくのは実は今回が初めての体験。最初は恥ずかしさもありなかなか声が出せませんでした。皆さんが次から次へと義援金箱に貴い義援金を入れていただくにつれ自然と「東日本大震災の義援金にご協力お願いしま〜す」と、声が出るようになってきました。2日目は小学生サッカーチームと合同です。子供たちの元気な声に負けてはいられません。おじさんも頑張りました。しかし、悲しいかな皆さん義援金を入れるのは子供たちの箱・・・もちろんどこに入れていただいても義援金は義援金。皆さんありがとうございました。左の収支報告を

ご覧いただいております。用賀商店街は日赤と現地直接と分けて義援金をお届けしました。たまに週刊誌の新聞広告で”届かない義援金”といった見出しを見ることがありますが、それを見るたびに「現地に直接お届けしていただいていた方が良かったな」と、思います。また、募金活動をしている時、募金して下さる方から「この義援金はどこがどのようにして被災地へ届けるのか」という質問を受けました。当然のことだと思いました。たとえ10円といえども貴重なお金です。うやむやにはできません。商店街では、当初から方向性を決めていたので義援金箱に書いたり、口頭で答えたりして皆様のご理解をいただくようにしていました。ここ最近では何となく義援金の募金活動も下火になってきていますが、現地ではまだまだこれからが大変だと聞きます。余震もまだまだ続いています。これから私たちが被災地に対して何が出来るのか？今一度考えてみる時かも知れません。

* いろはに刀サッチ#25「ぬ」* ～芋の煮えたも御存知ない～

「ぬ」は、江戸では「芋の煮えたも御存知ない」。これは、世間知らずの人をあざけりからかっていう言葉。芋が煮えたか煮えないかの区別もわからないほどの、坊ちゃん育ち・お嬢さま育ちという意味。京では「鯛の頭も信心から」これは、イワシの頭のようなつまらないものでも信心する人には尊く思われるという意味。物事をかたくなに信じる人を揶揄するときなどにも使います。「大阪」は「炒豆に花が咲く」。これは、炒った豆は熱のために芽が死んでいるはずなのに花が咲く。衰えたものが再び栄えることのたとえ。また、普通は起こらないことのたとえ。



用賀駅北口で「よっきー」といっしょに募金活動をする玉川法人会第9・10支部のみなさん

気付いてますか? 街の情報源



朝刊には毎日何がしかの折込チラシが入っています（最近では何も入らない日もありますが）。そんなチラシに混じって様々な地域情報紙が入っているのにお気づきでしょうか？毎月入るモノもあれば、季刊、不定期発行のものまで、実に多種多様です。かくいうこの「フレンドリーコム」もそのひとつ。毎月発行していますが、入る日は毎月変わる実にゆるい（ただ単に私ガズボラなだけですが・・・）ミニコミ紙です。今回はそんな情報源を大特集！もし今まで気付かなかった方はこれから朝刊をチェックしてみてください。思わぬ情報がゲットできるかも！？

★世田谷・採集（月刊・取り扱い紙全紙に折込）

かつて毎月折り込みされていた名物情報紙「タウンボイス」の後継紙。「タウンボイス」が都内城南地域の情報を扱っていたのに対し「世田谷・採集」は、世田谷に特化しています。そのためより身近で内容も濃いモノになっています。8月号のカレー特集は思わず涎が出そうになりました。これから期待大の情報紙です。

★ラジネタ（季刊・用賀を中心とした朝日新聞に折込）

エフエム世田谷が発行する情報紙。エフエム世田谷の番組タイムテーブルを中心に、世田谷のネタを小粋に混ぜて構成されています。番組表を見ると毎朝「ごみ収集」コーナーがあったり「二子玉川Good Choice」なんてコーナーがあったり、さすが世田谷区密着だけあるなあ、と感心してしまいます。もちろん「区議会の録音中継」もあります。

★フタコノオト（月刊・二子玉川店取り扱い紙全紙に折込）

昨年11月に創刊された二子玉川の情報満載のタウン紙。例えば6月号には「二子玉川オーケストラ」の記事が載っていました。二子玉川にオーケストラが出来たなんてフタコノオトがなかったら気付かませんでした。8月号では「多摩川の夏」をいろいろな角度から特集していました。読者プレゼントもあって、読み応えのあるタウン紙です。

★はっぴいで伊豆・ほっと熱海（季刊・用賀店の朝日新聞に折込）

「はっぴいで伊豆」は今年創刊の伊豆の情報満載のミニコミ紙。「ほっと熱海」はその名のとおり「熱海」の情報満載のミニコミ紙。伊豆や熱海でこんなにイベントがあったのか、と思うくらいイベント情報が満載です。地元の観光課や青年会から情報を提供してもらっているだけあって旅行ガイドブックとはひと味違う内容になっています。旅館やホテル、お土産物屋さんの割引クーポンも付いて伊豆方面に行くときには必携のミニコミ紙です。

★YOGA-R・こんにちは、用賀商店街です（不定期発行・基本取り扱い紙全紙に折込）

できたてホヤホヤのフリーペーパー「YOGA-R(用があ～る)」は、駒澤大学松本ゼミナールの全面協力で発行する用賀商店街のフリーペーパーです。用賀に関するいろいろな情報を足を使って集めています。活字の記事と手書きの記事がうまい具合に配置されています。特に手書きの記事は書き手の個性が感じられるとても温かい内容となっていて今後も期待大。

それ行け!! アサッチ

